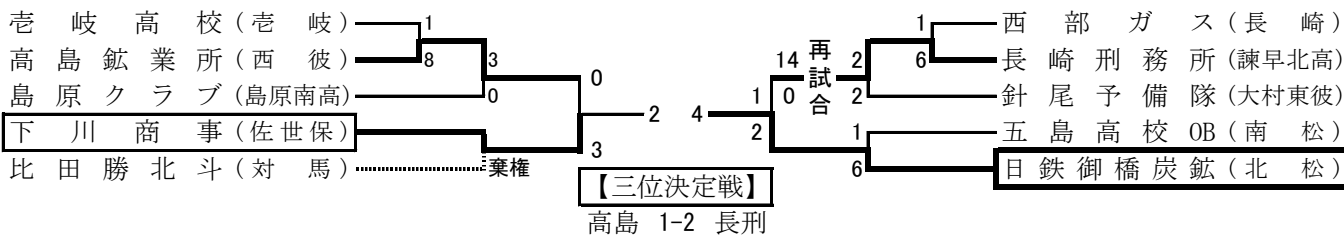


日鉄御橋炭鉱が、2年連続制覇の栄冠

第2回県下郡市対抗軟式野球大会

会期：昭和27年10月11日(土)～12日(日)

会場：A・長崎市宮大橋球場 B・長崎商高グラウンド



第2回県下郡市対抗軟式野球大会は未明の豪雨も定刻の10時にはカラリと晴れて、市警プラスバンドの奏楽裏に、渡辺源昇軟式野球連盟理事長の先導で、長崎市商女生徒のかかげるプラカードに続いて、前年度優勝の日鉄御橋をはじめ各地区代表9チームの入場により始まった。

引き続き11時から壱岐高校-高島鉱業の第一戦から熱戦の火ぶたを切り大橋球場で長崎刑務所-西部ガス、島原クラブ-高島鉱業の三試合。長崎商高グラウンドでは午後2時より五島高校OB-御橋炭鉱と長崎刑務所-針尾予備隊の二試合をそれぞれ挙行。

激闘のすえ高島鉱業、下川商事(棄権による不戦勝)、御橋炭鉱がそれぞれ勝ち残り、長崎刑務所と針尾予備隊は2-2のまま日没引き分けて、翌日再試合となった。



(昭和27年10月12日付けの長崎日日新聞より記事と写真は抜粋)

佐藤弟1号ホームー

【一回戦】大橋:第1試合(開始11:00) 振球

壱岐高校	000 000 100	1	9	2	【本】佐藤弟(高)
高島鉱業所	112 040 00X	8	4	7	【三】長崎(高)

【審判】(球)田中兄(塁)坂本、丸田

【評】高島は立ち上がり不調の壱岐井本投手をよく攻めて、三回まで3安打3敵失で4点。さらに五回佐藤弟のランニングホームーを含む3安打1四球で大量4点をあげて大勢を決した。

守ってはエース中元が外角に切れるカーブで、五回までに壱岐打線を無安打に抑える好投を示し七回からは中川が登板し壱岐高校を撃破した。

【壱岐】打安点	【高島】打安点
⑥ 浜口 4 0 0	⑦ 江頭 5 1 0
⑦ 山内 4 0 0	⑤ 大庭 3 0 0
⑤ 野本 4 0 0	⑥ 長崎 4 2 1
③ 豊田 3 0 0	③ 福島 4 0 0
① 井本 3 0 0	⑧ 江頭宏 4 0 0
② 太田 4 1 1	④ 佐藤兄 3 1 0
⑨ 山川 3 0 0	② 松尾 2 1 2
9 林 0 0 0	2 河野 1 0 0
④ 馬場 3 1 0	① 中元 2 1 2
⑨ 8 久間 2 1 0	1 中川 1 1 0
30 3 1	⑨ 佐藤弟 3 1 2

32 8 7

【西部ガス】打安点

⑧ 坂本 3 1 0
⑤ 6 流川 3 1 1
⑦ 緒方 4 0 0
⑥ 1 松尾 4 0 0
⑨ 黒川 3 0 0
② 下釜 3 1 0
③ 宮口 3 0 0
④ 片岡 3 1 0
① 楠本 0 0 0
1 宮原 1 0 0
5 白石 1 0 0
28 4 1

【一回戦】大橋:第2試合(開始13:00) 振球

西部ガス	000 001 000	1	4	2	【審判】(球)荒木
長崎刑務所	001 203 00X	6	2	6	(塁)尾崎、田中実

【評】長崎刑務所が西部ガスの繰り出す3投手を打ちまくって快勝した。西部ガスは予想どおり二回で楠本を退け三回から宮原が登板したが、この日不調の宮原は遊撃松尾の凡失もあって長刑川原の中前快打でまず1点。さらに四回にも二塁打1を含む3安打を浴びて2点を献じ、六回から3人目の松尾投手の登板となったが、松尾の軟投も波に乗った長刑打線をおさえきれず遂に、三塁手失、重盗、2安打などで決定的な3点を奪われ遂に長刑の軍門に下った。この日の長刑・原口投手は崩れそうで崩れず六回に坂本、流川の連安打に1点を許したのみで、要所をアウトカーブでしめて西部打線をわずか4安打におさえ第一戦の勝利投手となった。結局西部ガスは楠本を案外早くあきらめ宮原に頼りすぎたベンチのミスと再三にわたるタイムリーな内野の凡失によって自滅した。

【長崎刑務】打安点

⑥ 川原 3 2 1
⑤ 長門 3 0 0
⑦ 渡辺 4 0 0
⑨ 森永 4 1 0
⑧ 松本 2 0 0
① 原口 3 1 0
③ 力安 4 0 1
④ 松尾 4 2 2
② 西川 4 2 1
31 8 5

【高島鉦】打安点

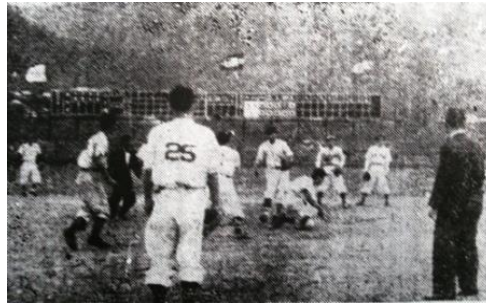
⑦江頭	4	1	0
⑤大庭	3	1	0
⑥長崎	3	0	0
③福島	3	1	0
⑨佐藤弟	2	1	1
④佐藤兄	4	2	1
②松尾	3	0	0
2河野	1	1	0
①中元	4	0	0
⑧江頭弟	3	0	0
<hr/>			
	30	7	2

【二回戦】大橋:第3試合(開始15:00) 振球

高島鉦業所	000	100	020	3	3	6
島原クラブ	000	000	000	0	11	1

【審判】(球)尾崎
(塁)田中実、平島

【評】高島は中元投手の好投に島原打線をシャットアウトして快勝した。高島はエース中元が外角低目をきるカーブで好投し三振11を奪って島原打線を翻弄し島原の永池、川田に二、八回にそれぞれ長打を浴びたが要所を抑えて悠々の完封勝利。攻めては四回三遊間安打に出た福島を佐藤兄の右前安打で還してまず1点。さらに八回相次いで四球に出た長崎、福島が一三塁のとき重盗成功した後にこの日の当り屋佐藤弟の二塁打で福島も還りダメ押し点をあげた。



6回裏高島の佐藤弟が二三塁間挟殺

【島原ク】打安点

⑧梅村	4	0	0
⑤高田	3	0	0
H鈴谷	1	0	0
②松本	3	0	0
⑦永池	3	1	0
③徳永	2	0	0
①川田	3	1	0
⑥谷口	3	0	0
⑨村里	3	0	0
④宮崎	3	1	0
<hr/>			
	28	3	0

【御橋】打安点

⑦古賀	5	2	1
④砂田	4	0	1
②宇治橋	5	2	0
③古賀弟	5	2	1
⑥山川	3	1	0
⑤堀	4	1	2
①土橋	3	0	0
⑧泉	4	1	0
⑨熊部	3	0	0
<hr/>			
	36	9	5

【二回戦】長商:第1試合(開始14:15) 振球

日鉄御橋炭鉦	000	101	202	6	4	4
五島高校OB	000	000	001	1	5	0

【三】山川(御)
【二】辻田(五)

【評】御橋が実力の差で勝利した。前半善戦した五高OBも四回、御橋宇治橋の安打を基として1点。六回は山川、堀の長短打で1点と実力の差は如何ともし難く七、九回にダメ押し点を加えられて万事休した。

五島の打線は御橋の土橋投手の低目を衝くシュートや外角のカーブに手が出ず僅かに九回相手守備陣のエラーに乗り、1点を入れてシャットアウトを免れた。御橋の勝因は要所を締めていた土橋の健投であった。

【五島】打安点

⑧川口	4	1	0
⑥横井	4	0	0
④山下	4	0	0
⑤田中	4	0	0
③平山	3	0	0
⑨1植松	3	2	0
②磯田	3	1	0
⑦土山	3	0	0
①9辻田	3	1	0
<hr/>			
	31	5	0

【長刑】打安点

⑥川原	4	0	0
⑤長門	4	1	0
⑦渡辺	4	0	0
⑨森永	4	1	0
9千住	0	0	0
①松本	1	0	0
③力安	4	0	0
④松尾	3	1	0
⑧本田	2	0	1
8原口	1	0	0
②西川	1	0	0
<hr/>			
	28	3	1

【二回戦】長商:第2試合(開始16:15) 振球

長崎刑務所	000	000	02	2	5	6
針尾予備隊	000	000	02	2	8	2

【審判】(球)荒木
(塁)高島、伊藤

【評】2-2のタイスコアのまま日没引き分けとなり翌日午前9時より大橋球場で再試合を行なうことになった。アウトドロ(アウトコースドロップの略?)と、十字火球(クロスファイヤー投法の事?)の刑務所・松本と、カーブと速球の予備隊・武次両投手の好投で淡々たる投手戦が七回まで続いたが、八回両軍の攻防で俄然活気づき、まず刑務所が1安打1四球をスクイズを生かして1点。この時一塁送球の間に二走の松本好走よく2点をあげ試合を決したかと思われたが、予備隊はその裏紀井の内野安打をきっかけにルーズな長刑守備陣に乗り、三つの内野安打で2点を挽回しタイにこぎつけ、なお追加点を狙ったが二度にわたるスクイズの失敗から逸機。日没のため八回終了で遂に引き分けとなった。

【針尾】打安点

⑦中村	4	1	0
④金子	4	0	1
②福田	2	1	0
①武次	4	0	0
⑨園川	3	1	0
⑤田中	3	0	0
③紀井	3	1	0
⑧川副	3	0	0
⑨平野	3	2	0
<hr/>			
	29	6	1



【長刑】打安点

⑥川原	3	2	0
⑤長門	5	0	0
⑦渡辺	5	0	1
⑨森永	4	1	1
①8松本	4	1	0
③力安	2	1	1
⑧本田	1	0	0
④松尾	3	1	0
1山崎	1	0	0
31原口	2	1	3
②西川	3	3	4
<hr/>			
	33	10	10

【二回戦】再試合 第1試合 振球

長崎刑務所	002	372	0	14	3	7
針尾予備隊	000	000	0	0	4	5

【本】森永、原口(長)
【三】力安(長)

(7回コールド)

長崎刑務所は、森永、原口の本塁打を含む10安打を針尾予備隊の2投手に浴びせて7回コールドで快勝した。

(球)荒木(塁)尾崎、伊藤

【針尾】打安点

⑦1中村	1	0	0
③川副	2	0	0
②福田	3	0	0
①7武次	3	0	0
⑨園川	2	0	0
⑧紀井	2	0	0
④高橋	2	0	0
H日高	1	0	0
⑤田中	2	1	0
⑥平野	1	1	0
<hr/>			
	19	2	0

栄光は再び北松御橋炭鉦の頭上に輝いた。梶原の力投はよく御橋に2年連続制覇の栄冠をもたらした。苦しかった過去一年間の練磨が漸く報いられたこの日の感激を胸に晴れの大優勝旗、桑原会長杯、読売大杯を手に場内を一巡するナインの眼には喜びの涙がとめどもなく流れていた。

大会二日目は午前9時から大橋球場で再試合となっていた長崎刑務所(諫早北高)―針予備隊(大村東彼)

戦を行い、引き続き準優勝戦の下川商事(佐世保)―高島鉦業(西彼)戦。長崎刑務所―御橋炭鉦(北松)戦を挙行。この結果、三位決定戦の高島鉦業―長崎刑務所。優勝戦の御橋炭鉦―下川商事の各熱戦を展開。この日合計3本のホームーを応酬する活発な打撃戦につめかけた観衆のヤンヤの喝采をあげたが午後5時半さしもの激戦も御橋の優勝で終了した。

(10月13日付けの長崎日日新聞より記事と写真は抜粋)

【準優勝戦】 第2試合(開始11:15) 振球 (球)宮崎(塁)丸田、柳迫

下川商事	000 000 021	3	2	3
高島鉦業所	000 000 000	0	1	3

【二】若元、田中(下) 福島(高)

【下川】打安点

②若元	3 1 1
⑧大桑	3 1 0
③乙須	3 0 0
⑨田中	4 1 1
④渡辺	4 0 0
⑤南里	2 0 0
⑦河野	3 0 0
①稗田	3 0 0
⑥大倉	3 1 1
<hr/>	
	28 4 3

【評】佐世保の稗田、高島の中元はともにサイドからのスローカーブで好投し、淡々たる投手戦を展開したが、三連戦の高島に対し緒戦の下川がやや押し気味に試合を進め若元、田中の二塁打を含む5安打を放ち、3安打の高島に打ち勝ち、この安打数の差が試合を決した。

七回まで好投を続けた高島の中元はさすがに二日間の連投に疲れて、八回先頭の南里を歩かせたのが破たんのもとで河野を三振、稗田を二飛に打ち取りホッとひと息ついたものの続く大倉の当りそこないの一撃が内野安打となり、二塁から俊足よく南里が還りまず1点。さらに若元の遊ゴロを一塁に低投しこの間に大倉が還り2点を献じ、さしもの熱戦もここで大勢を決した。下川は球威の衰えた中元を攻め九回は田中の右越二塁打で四球走者を還しダメ押し。

高島の敗因はこの日前半不調でボールを多投していた下川の稗田投手に正面から挑みかかり悪球を強振して凡打に打ち取られ、却って後半に立ち直らせてしまった打撃陣の無策にあった。

【高島】打安点

⑦江頭	4 1 0
⑤大庭	3 0 0
⑥長崎	4 0 0
③福島	4 2 0
⑨佐藤弟	2 0 0
④佐藤兄	2 0 0
②松尾	3 0 0
①中元	3 0 0
⑧江頭宏	3 0 0
<hr/>	
	28 3 0

【長刑】打安点

⑥川原	4 0 0
⑤長門	4 1 0
⑦渡辺	4 0 0
⑨森永	3 1 0
⑧松本	3 0 0
①原口	3 2 0
③力安	3 0 0
④松尾	3 0 0
②西川	2 0 0
<hr/>	
	29 4 0

【準優勝戦】 第3試合(開始13:00) 振球 (球)田中実(塁)荒木、伊藤

長崎刑務所	010 000 000	1	5	1
日鉄御橋炭鉦	000 100 001x	2	1	7

【三】長門(長)

【二】原口(長)、堀(御)

【評】互角のまま四ツに組んだ試合も最終回藤原の殊勲打で御橋が優勝戦に進んだ。長刑は大会屈指の好投手土橋を二回早くも森永、原口の長短打でKO。代わった梶原の悪投に1点先取る果敢な攻撃に強豪・御橋危うしと思わせた。御橋は内角から外角を衝く十字火球を武器とする長刑・原口投手に三回まで無安打に封じられていたが四回に堀、梶原の長短打で同点にこぎつけたまま最終回を迎えた。長刑が長門の三塁打をスクイズ失敗したのに対し、御橋は四球の梶原を定石通りバントで送り、藤原の遊撃頭上を高々と越える殊勲打でサヨナラ勝ちした。エース土橋KOの後のマウンドを守った梶原の低目をつく速球の好投が御橋の勝因。

【御橋】打安点

⑦古賀兄	4 0 0
④砂田	3 0 0
②宇治橋	3 0 0
③古賀弟	4 0 0
⑥山川	4 0 0
⑤堀	4 1 0
⑨森	0 0 0
1梶原	1 1 1
①⑨土橋	0 0 0
⑧藤原	3 1 1
<hr/>	
	26 3 2

【高島】打安点

⑦江頭	4 1 1
⑨大庭	3 0 0
⑥長崎	4 1 0
③福島	3 1 0
⑤佐藤弟	3 1 0
④佐藤兄	3 1 0
②河野	2 1 0
①中元	3 1 0
⑧江頭宏	3 0 0
<hr/>	
	28 7 1

【三位決定戦】 第4試合(開始14:40) 振球 (球)坂本

高島鉦業所	100 000 0	1	2	3
長崎刑務所	200 000 X	2	2	0

(塁)田中実 柳迫

【本】江頭(高) 【三】長崎(高) 【二】中元(高)、松本(長)

【評】初回に1点先取された長崎刑務所は、その裏に安打の川原と渡辺を松本の2点二塁打で逆転し山崎、松本両投手の継投でそのまま押し切って三位に決定した。高島は初回先頭の江頭が本塁打した1点のみ。

【長刑】打安点

⑥川原	3 1 0
⑤長門	3 0 0
⑦渡辺	3 2 0
②森永	3 0 0
⑧①松本	2 1 2
③原口	2 0 0
④松尾	2 0 0
①山崎	0 0 0
H力安	1 0 0
⑨本田	1 0 0
8千住	2 0 0
<hr/>	
	22 4 2

御橋炭鋏 **北松代表** 輝く二連覇

梶原の力投光る 空し!下川の追撃

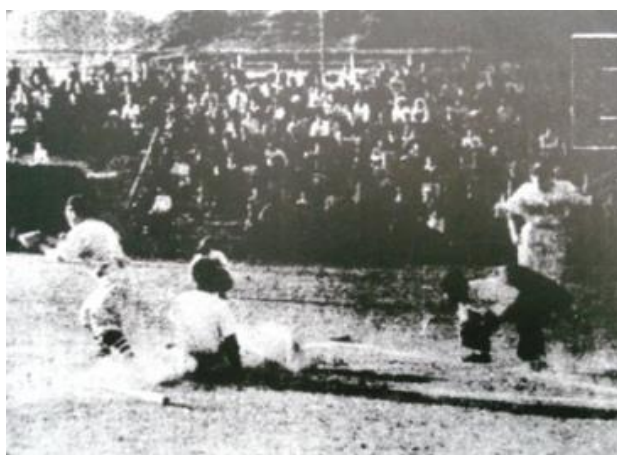
【優勝戦】第5試合(開始15:45) 振球 (球)田中兄 (塁)宮崎、尾崎

日鉄御橋炭鋏	000 300 100	4	3	1
下川商事	000 020 000	2	3	2

【三】宇治橋(御)
【二】土橋2、古賀(御)、大桑(下)

【評】御橋炭鋏が梶原の力投で下川商事の追撃を振り切り二年連続制覇をなし遂げた。御橋は梶原、下川は山口と共にエースを送って序盤は優勝戦らしい投手戦を展開していたが、先制点を与えたのは下川の子。四回、先頭の宇治橋に三塁打を浴び、一死後に三ゴロ一塁高投で与えずもがなの2点。さらに当り屋土橋の三塁強襲二塁打で1点を奪われ大勢を決した。その後五回に若元、乙須、田中の安打で2点を返し1点差と迫ったが「打たして取る、余裕しゃくしゃくの梶原の好投に抑えられ、以後の追撃を阻まれた。

しかも七回球威の衰えた山口が土橋の2本目の二塁打と、古賀の左翼二塁打を浴びダメ押しの1点を奪われアツケなく御橋の軍門に降った。



御橋四回表一死二塁
土橋の三塁強襲二塁
打で堀が還り3点目

【御橋】打安点

⑦古賀兄	4 1 1
④砂田	4 0 0
②宇治橋	4 2 0
③古賀弟	3 0 0
⑥山川	4 0 0
⑤堀	4 0 0
①梶原	4 0 0
⑨土橋	4 2 1
⑧藤原	3 1 0
	34 6 2

【下川】打安点

②若元	3 1 0
⑧大桑	3 1 0
③乙須	4 2 1
⑨田中	3 1 1
①山口	4 0 0
④渡辺	3 0 0
H 稗田	1 0 0
⑤南里	4 1 0
⑦河野	3 0 0
H 吉田	1 0 0
⑥大倉	3 0 0
	32 6 2

【表彰選手】

- 最優秀選手賞 梶原投手(御橋)
- 敢闘選手賞 宇治原捕手(御橋)
- 殊勲選手賞 田中右翼手(下川)
- 〃 西川捕手(長刑)



○…本大会は読売新聞社より『読売大杯』が寄贈され優勝の日鉄御橋炭鋏に、長崎日日新聞大優勝旗、桑原会長杯とともに授与された。また開会式や優勝戦および、閉会式のシーンを『読売国際ニュース』がフィルムに収め、数日後に長崎市内の国際映画劇場で封切り上映されることになっている。

昭和27年の全国大会における長崎県代表チームの戦績

天皇賜杯第7回全日本軟式野球大会【50チーム】

(S27.7.12～・大分市、別府市、中津市)

- 日鉄御橋炭鋏 【一】 3-0 日本石油(秋田)
- 【二】 1-0 滋賀刑務所(滋賀)
- 【三】 4-1 大垣市役所(岐阜)
- 【準々】 2-0 大孫起毛(愛知)
- 【準】 0-1 豊多摩刑務所(埼玉)
- 【三位】 1-2 小倉製鋼(福岡)

第3回西日本準硬式大会【27チーム】5/1～:石川県

日鉄御橋炭鋏 【二】 4-10 玉島ディーゼル(岡山)

第7回東北国体(福島・32チーム)には、九州から熊本(2勝1敗)、福岡(0勝)、大分(0勝)が出場。